

産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発

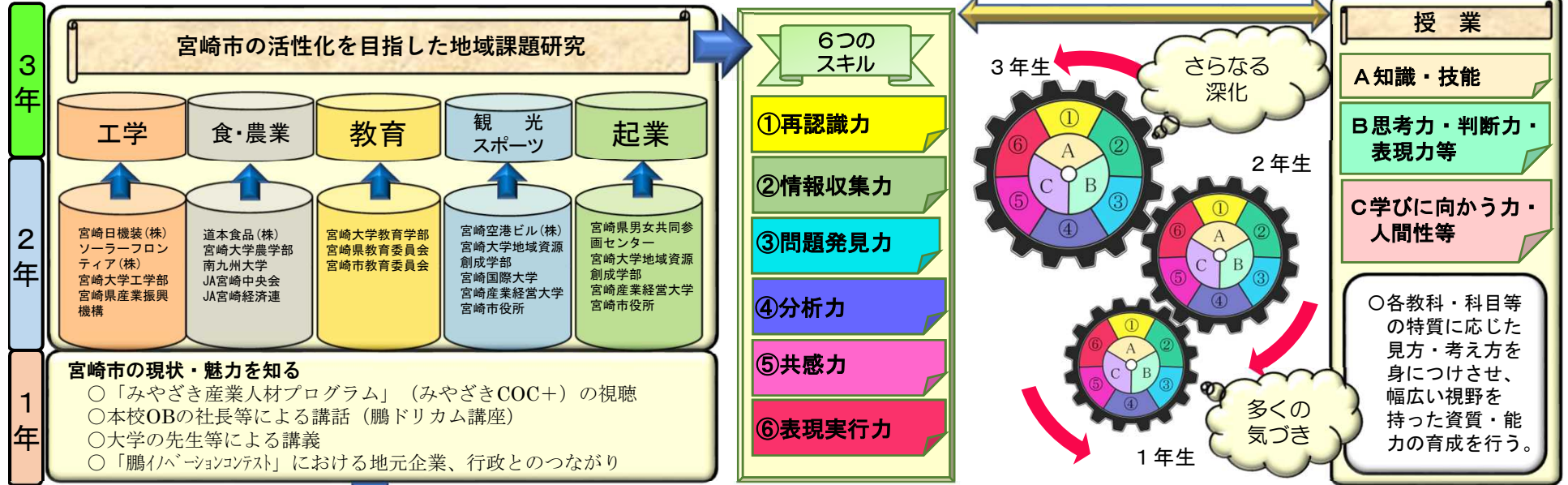
課題

- ・若年層の県外流出の増加
- ・郷土に魅力を感じていない生徒の増加
- ・自分の可能性に気づいていない生徒の増加

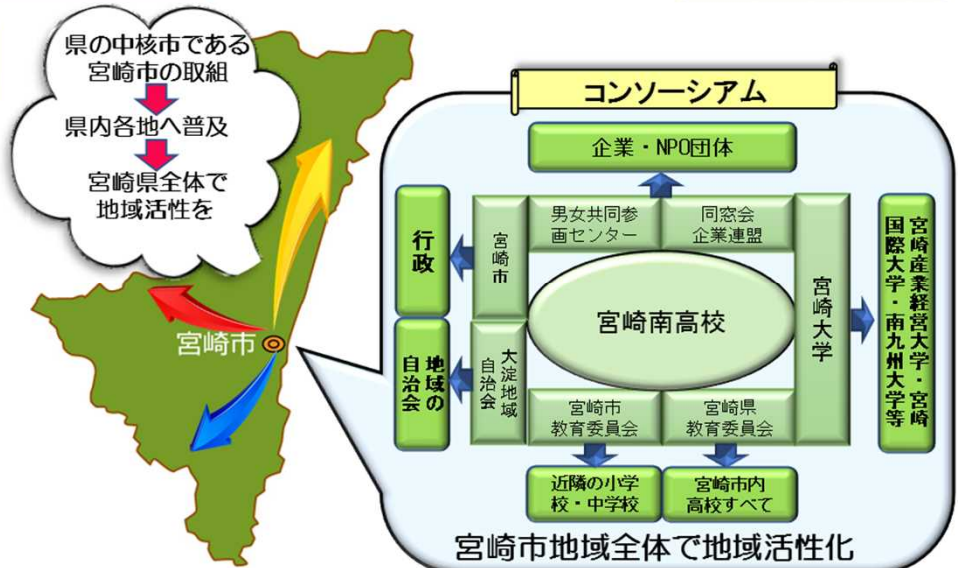
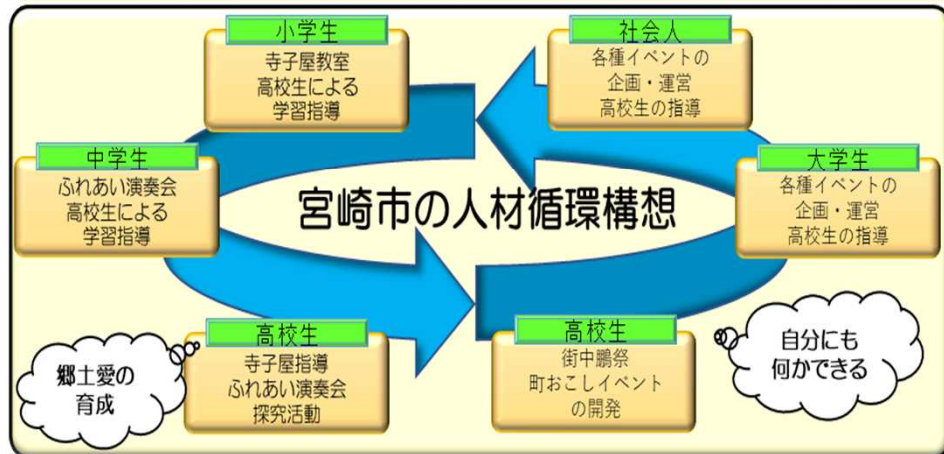
開発の目標

- ・身近な地域社会の問題を自分のこととして捉え、新たな解決策を地域に寄り添いながら提案、実践できる人材の育成
- ・宮崎市内の高校にも普及させ、地元活性化に人材を発掘できるコンソーシアムを構築

研究概要



地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成



類型名	ふりがな	みやざきけんきょういくいんかい	ふりがな	みやざきけんりつみやざきみなみこうとうがっこう
地域魅力化型	管理機関名	宮崎県教育委員会	学校名	宮崎県立宮崎南高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：宮崎県教育委員会

代表者名：日隈 俊郎

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：宮崎県立宮崎南高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：内田信昭

2 取組内容

本研究では、地域に根差す人材の育成として身につけさせたい6つのスキルを再認識力、情報収集力、問題発見力、分析力、共感力、表現実行力とし、総合的な探究（学習）の時間と各教科科目において育成する。また、研究成果を宮崎市内の高校に普及させ、人の地域循環の大規模コンソーシアムを構築する。

研究開発Ⅰ「地域の現状・魅力を知る地域力」の育成

地域のことを学ぶ「地域学Ⅰ，Ⅱ」において地域の魅力、地域財産を再認識し、地域の可能性や課題を考える力を養う教育プログラム

研究開発Ⅱ「地域資源の新しい価値を見出す力(イノベーション力)」の育成

地域資源の新しい価値や課題解決を地域課題研究から探究し、地域創生の使命感を持たせる教育プログラム

研究開発Ⅲ「地域の価値を発信するための行動力・実践力」の育成

課題研究を通して得られる結果を、行政、大学、企業に提案に自己実現の場として地元志向の生徒を増やす研究プログラム

各教科における取組：授業において新学習指導要領の資質・能力の三つの柱（以下、三つの柱）を育成する。

3 管理・運営方法

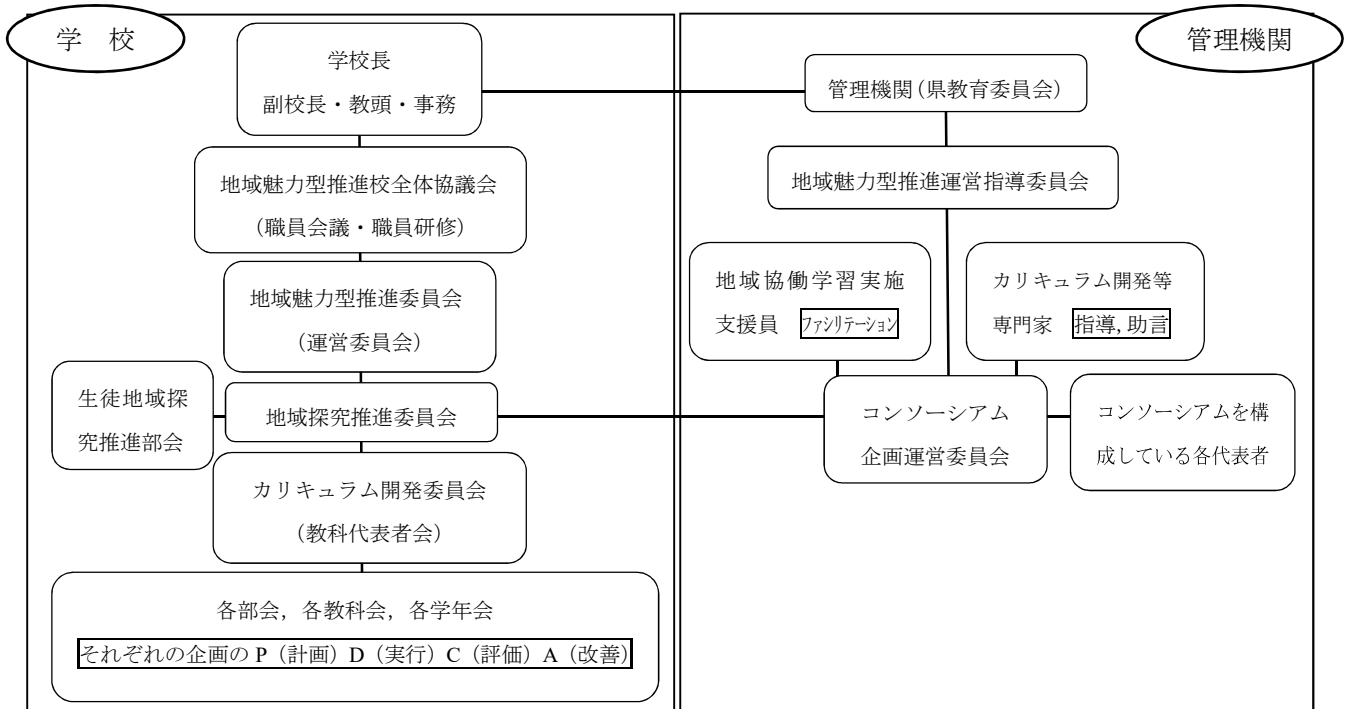
(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名	
宮崎市	市長	戸敷 正
宮崎県教育委員会	教育長	日隈 俊郎
宮崎市教育委員会	教育長	西田 幸一郎
宮崎大学	宮崎大学学長	池ノ上 克
宮崎空港ビル株式会社	代表取締役社長	高屋 靖夫
宮崎県男女共同参画センター	所長	山田 成美
宮崎市大淀地域自治会連絡協議会	議長	中川 雄一

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

宮崎県教育庁やコンソーシアム企画運営委員会と協議の上、地域に根差す人材（人の地域循環型大規模コンソーシアム形成）を育成する。本校において職員研修を年3回（7月、12月、3月）開催し、地域のビジョン、求める人材等を共有する。また、本校において公開授業を年2回、課題研究発表会を年1回実施し、コンソーシアム構成員にも参加していただきながら、本校の取組について共有を図る。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制



(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェSSIONAL型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

宮崎大学教育学部 教授 添田 佳伸

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

企業組合ライオン堂 代表理事 相田 慎一郎

(6) 運営指導委員会の体制

所 属	役職 氏名
宮崎国際大学	地域連携センター長・大学部長 矢野 健二
宮崎産業経営大学	高大連携センター長・法学部教授 徳地 慎二
宮崎市青少年育成連合会	事務局長 青山 桂子
有限会社嶋末塗装店	代表取締役 嶋末 武

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

中間報告・・・本校職員による研究の分析と指導助言

研究発表会・・・有識者による評価

審査員長：宮崎大学産学・地域連携センター長 國武 久登

審査委員：運営指導委員会メンバー

成果報告会・・・すべての関係機関が一同に会して成果報告会を行い、評価と指導助言、協議を実施後、推進校において検証を行う。

コンソーシアム企画運営委員会にて達成目標数値（別紙様式7）を検証し目標達成に向けての指導・助言を行う。 指導・助言者：宮崎大学 教育学部長 藤井良宜

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

① 人的支援

- 地域協働推進校には、地域魅力化型事業の円滑かつ効果的な推進に資するよう、課題研究活動や探究活動の分野で実績のある職員の優先的な配置に努め、指導体制の確立や

○ J Tによる人材育成を支援する。

○ 地域協働推進校の担当者が、校内における指導に注力できるよう、加配による常勤講師または非常勤講師の配置に努める。

② 情報支援

○ 高校教育課及び県教育研修センターの事業である「ひむかハイスクールE x p o」や「キャリアフォーラム」等の発表会を通して、指定校の活動を向上させる支援を行う。

③ 物的支援

○ 地域協働推進校の関係職員が、「全国高等学校魅力化フォーラム」等に参加するために必要な経費を支援する。

○ 地域協働推進校の担当及び高校教育課の指導主事等が、他県の先進校等に視察を行うために必要な旅費を支援する。

○ 地域協働推進校が、地域課題解決学習に取り組むために必要な消耗品等の費用として、需用費を一部支援する。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の配置方法や体制については、県単事業として再配置し、継続して取り組む。

さらに、学校の取組を、宮崎南高等学校同窓会によって組織された後援会によって、さらに強化できるようにする。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	みやざきけんりつみやざきみなみこうとうがっこう				②所在都道府県	宮崎県	
2019～2021	①学校名	宮崎県立宮崎南高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	全日制普通科高校		
普通科	283	280	315	0	878	普通科	1学年7～8クラス	
707科	84	84	76	0	244	707科	1学年2クラス	
⑥研究開発構想名	産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発							
⑦研究開発の概要	<p>本研究では、地域に根差す人材の育成として身につけさせたい6つのスキルを再認識力、情報収集力、問題発見力、分析力、共感力、表現実行力とし、総合的な探究（学習）の時間と各教科科目において育成する。</p> <p>研究開発Ⅰ「地域の現状・魅力を知る地域力」の育成 地域のことを学ぶ「地域学Ⅰ、Ⅱ」において地域の魅力、地域資源を再認識し、地域の可能性や課題を考える力を養う教育プログラム</p> <p>研究開発Ⅱ「地域資源の新しい価値を見出す力（イノベーション力）」の育成 地域資源の新しい価値や課題解決の方法を地域課題研究から探究し、地域創生の使命感を持たせる教育プログラム</p> <p>研究開発Ⅲ「地域の価値を発信するための行動力・実践力」の育成 課題研究を通して得られた成果を、地元の企業・大学・行政に提案し、自己実現の場として捉える生徒を育てる研究プログラム</p> <p>各教科における取組：授業において新学習指導要領の資質・能力の三つの柱（以下三つの柱）を育成する。</p>							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>①目的：宮崎市内で地域創生に取り組む企業・大学・行政と連携し、地域活性のための課題を複眼的に見つめ直すことから解決策を考えることで郷土に対する誇りと愛着を育成する。そして、宮崎市の活性化対策に高校生から取り組むことで、地域活性のやりがいを見出し、郷土を担う使命感を育成する。また、多数の高校、大学、企業を有する宮崎市が一つの大きなコンソーシアムを組織し、郷土を担う人材定着の基盤を作ることで全国の同様の問題を抱える中核市のモデルとなる。</p> <p>②目標：身近な地域社会の問題を自分のこととして捉え、新たな解決策を地域に寄り添いながら提案実践できる人材を育成し、本研究の成果を宮崎市内の高校にも普及させ、地元活性化に貢献できる人材を発掘できるコンソーシアムを組織する。宮崎市、延いては宮崎県全体として地域に根差す人創りの基盤をつくる。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>①現状の分析 宮崎市は県庁所在地でありながら若者の県外流出が著しい。本校は宮崎市中心部に位置する進学校であるが、「生徒の郷土に対する意識調査」では将来的に宮崎県外での就職を考える生徒は全体の40%であり、その理由として「地元に住みたいと思わない」が42%と最も高く、郷土に魅力を感じていないことが伺える。このことより、郷土の魅力、可能性を再認識させ、郷土の貴重な地域資源の新たな可能性を見出し、郷土への愛着や誇りを持つ若者の育成が早急課題と考えた。本研究開発は宮崎市内の産学官が一体となり地域に根差す人材の育成を図るために以下の研究仮説を立て、取り組むことにした。</p> <p>②研究開発の仮説</p> <p>【仮説1】研究開発Ⅰにより宮崎市の魅力・可能性を知ることで郷土への愛着や誇りを高め、郷土の新しい価値を見出すことができる。</p> <p>【仮説2】研究開発Ⅱにより、地域課題研究に取り組むことで自分の可能性を認識し、地域創生の使命感を育成することができる。</p>						

【仮説 3】研究開発Ⅲにより、自己実現の場として地元志向の生徒を増やすことができる。
 【仮説 4】各教科において三つの柱を育成することにより、それぞれの本質に根差した見方、考え方を養うことで複眼的視点を育成できる。

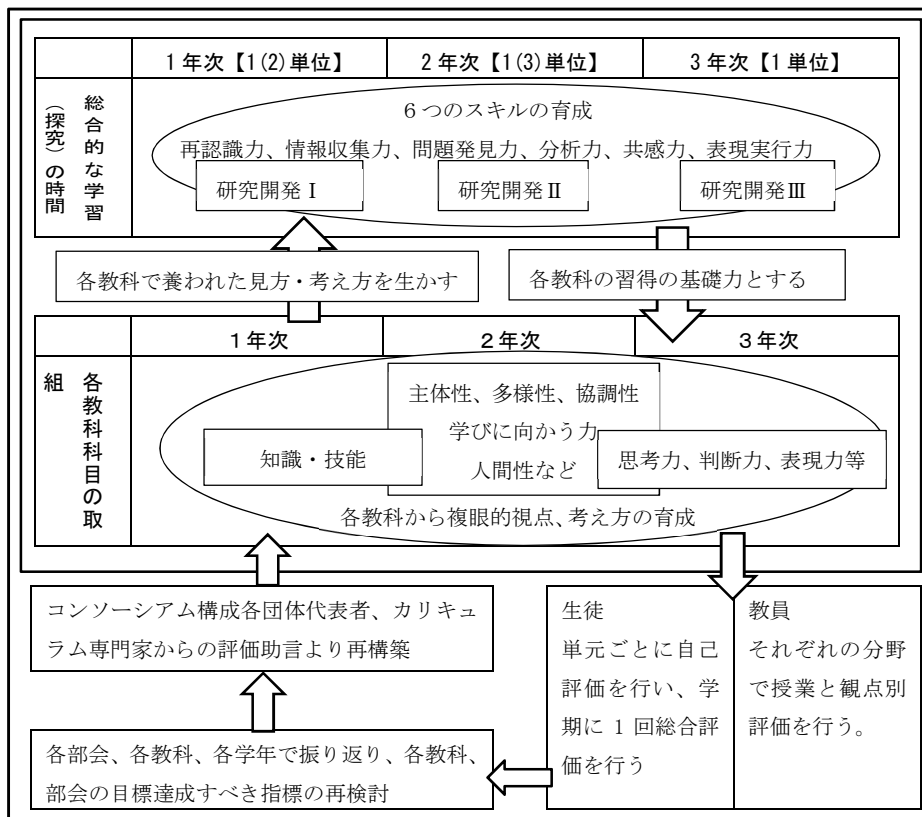
(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

下記の内容は総合的な探究（学習）の時間または学校行事として実施

	実施内容
研究開発 I (1 学年)	「地域学Ⅰ」により宮崎県の高等教育機関が取り組んでいる COC+ を利用し多方面の分野において地域の魅力、現状を学ばせる。「地域学Ⅱ」において企業との座談会を行い地域企業の魅力を知る。地域学で学んだことをまとめ、課題研究に活用する。「鵬イノベーションコンテスト」を行い、地元企業とのつながりを形成。また、課題研究の手法を学ぶ。「進路ガイダンス」により、自己実現に向けて進むべき分野を知る。「SIM みやざき 2030」により仮想行政を体験し、課題解決のための複眼的視点を養う。
研究開発 II (2 学年)	研究開発 I での学んだ地域の課題や魅力、ミニ課題研究をもとに「地域課題研究」にコンソーシアム各団体と協働で取り組む。中間発表を行い研究の見直しを行う。また、研究成果をもとに国内、海外研修にて宮崎市の PR 活動を行う。12 月末に研究発表会を行い、3 学期に個人で論文作成を行う。また、成果をまとめ 3 年生への成果報告会、進路への成果発進につなげる。
研究開発 III (3 学年)	校外の研究発表会で成果発表を行い、他校と情報を共有し普及を図る。また、研究成果を企業や大学、行政に提案する。「起業講座」により学んだノウハウを今までの学びと結び付け、将来の可能性の拡大を図る。そして、研究開発や各教科の取組で育成した能力を進路実現に活かす。
各教科の取組	指定教科で「防災」をテーマとした授業を行い、教科横断的思考力を養う。

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

⑧-2 具体的内容



本校に新たに「地域探究推進部」を設立、管理機関と連携を取りながら推進する。

(3) 必要となる教育課程の特例等 あり

「社会と情報」2 単位を「探究基礎情報」2 単位とする。

⑨その他特記事項

なし